

川中島古戦場八幡神社



川中島古戦場

八幡社はちまんしゃ

御祭神

譽田別尊ほんだわけのみこと

建御名方命たけみなかたのみこと

この神社は八幡社といい、これより先は武田信玄が陣構え、御加護を仰いだ八幡大神を奉斎する神社の神域となり、正面手前が旧社殿（鞘堂）、奥が現在の神殿であります。

また昔よりこの辺一帯をこの神の御名に因んで八幡原と称しております。

先ず御神前にお進みになりましたら、御祈願の上、二礼二拍手一拝の作法でお参り下さい。尚、この神社は、小島田町田中、野田地区の氏子の皆様により大切にお護りされておりますので、神域での飲食物、空缶、タバコ等の投げ捨ては、固く御遠慮下さいますようお願い申し上げます。

社務所







川中島古戦場八幡原

川中島合戦は今から四百年前、天文二十二年より永禄四年に至る十三年の永きに亘って行はれたが、後世に伝えられている川中島合戦は永禄四年の戦いを指している。

この戦は越後の雄将上杉謙信、甲斐の智将武田信玄がこゝ、川中島に雌雄を決せんと武田勢は八幡原に、上杉勢は妻女山に陣をとり、両軍併せて三万三千余。九月十日未明の霧深い中で信玄の「鶴翼」の配備と謙信の「車懸」の攻撃で双方死闘を盡し、こゝ、八幡原は大修羅場と化した。

その中において謙信は只一騎愛刀「小豆長光」を振りかざし武田の本陣に切り込み不意を突かれた信玄は軍配で謙信の太刀を受けたという有名な「三太刀七太刀」も此の処である。時に信玄四十一才、謙信三十二才であった。

この戦いで死傷者七千を救え史上最大の激戦で両将の決戦場こゝ、八幡原に現存する土盛り跡は、武田本陣楯形陣地で当時の一部を物語っている。

両将の戦術は幾多の戦術研究の指針とし現代戦にも多く応用されたと聞く。

武田の居城海津城は東南四料の松代に、また頼山陽の「鞭声肅々夜渡河」で有名な雨宮渡は東側を流れる千曲川の上流約六料の地点である。

正面に旧社殿(鞆堂)、その後方に現在の神殿が見える





石柱に「皇太子殿下御手植松」とある



三太刀七太刀之跡



三太刀七太刀之跡み た た ち な な た ち の あと

永禄四年（一五六一）九月十日、ここ八幡原をはちまんばら

中心に上杉、武田両軍三万余の壮絶な死闘が展開された。上杉謙信は紺糸織の鎧こんいとあてしよろいに萌黄緞子の胴肩もえぎどんすどうかた衣、金の星兜かぶとに立烏帽子たてえまほし白妙しろたえの練絹ねりぎぬで行人包ぎまづにんづつみ、長光ながみつの太刀を抜き放ち、名馬放生なまはなはらに跨がり戦況の進展に注目、乱戦で武田本陣が手薄になったのをみ、旗本数騎をつれ信玄の本営を強襲した。この時の武田信玄は諏訪法性の兜すわほつしやう、黒糸織の鎧くろいとあての上に緋ひの法衣、軍配を右手にもち、この地で崩れかかる諸隊を激励指揮していた。この信玄めがけて謙信は只一騎、隼の如く駆け寄りざま、馬上より流星一閃、信玄は軍配で受けたが、続く二の太刀で腕を、三の太刀で肩に傷を負った。後にこの軍配を調べたところ刀の跡が七ヶ所もあったといわれ、この一騎討ちの跡を世に三太刀七太刀の跡という。

長野市

旧社殿(鞘堂)



八幡社御由緒

はちまんしゃ

鎮座地

長野市小島田町字新田一三六二番地一

御祭神

誉田別尊
建御名方命

御由緒

祭神の誉田別尊は第十五代応神天皇の諱で神功皇后を母とし在位四十一年に亘り大陸の文化を積極的にとり入れられ、古代日本の文化の向上、国家の発展に尽くされた御功績が仰がれ皇室の崇敬する神であるばかりでなく源氏一族をはじめ武人の神、弓矢八幡と称して全国各地へ勧請され、開拓の守護神、農耕神としても信仰されました。

当社においても平安中期、源頭清が信濃の国に流された時、この地を訪れ広大な景勝の原野に武運長久を祈り八幡大神（誉田別尊）を、神木の大神に包まれる鞘堂内の二神殿に祀られたことから、この広原一帯を八幡原と名づけました。

川中島合戦で破壊された神殿を信玄は、高坂弾正に命じて社殿を再建させ、その後松代藩真田家が明治維新まで代々祭祀、修繕の管理運営をされました。

現在は明治四十一年に建御名方命（諏訪大社の祭神）が合祀され、その御神徳は、必勝、厄除、交通安全、安産、育児などであります。



現在の神殿



























記念木 逆槐(さかさえんじゅ)





さかさ
逆

えんじゆ
槐

山本勘助等の進言による「キツツキ戦法」の採用を決定した武田信玄は、永禄四年（一五六一）九月九日夜、こはちまんぼらこ八幡原に上杉軍狭撃の陣地を構えた際、この場所に土塁を積みかさね、矢来を組み、盾をめぐらして本陣をおいた。このとき土塁の土どめに自生の槐えんじゆの杭を根を上にして打ち込んだのが芽を出し、その後約四百年を経てこの巨木に成長したものと伝えられる。

周囲に低い土塁のあとが見えるのは、信玄本陣を示す柵形陣形跡である。ますがたしんけい

長野市

土塁のあと





執念の石



執念しゅうねんの石

武田・上杉両軍三万余の死闘を展開した川中島合戦の最中、作戦の失敗から緒戦の劣勢を余儀なくされ、身辺が手薄となった武田信玄めがけて切り込む上杉謙信の鋭い切っ先に、あわや信玄も八幡原はちまんばらの露と消えようとした間一髪、武田軍の中間頭原大隅はらのおおすみが、傍かたわらにあった信玄の持槍、青貝の長柄を取って馬上の謙信をめがけて、ひと槍突きだした。苛立いらだった槍は鎧の肩の上にそれ、残念なりと返す槍で謙信の鎧の肩を斜右上から力いっぱい打下したが、またも外れて馬の三頭さんずをしたたか打ったので、馬は驚き跳ね上ってその場を狂奔きぼうほんし去ったため、信玄は危く虎口を免れることができた。一方謙信を取り逃がし、無念やるかたない原大隅は、傍にあったこの石を槍で突き通したといわれる。

長野市

八幡原本陣再現



はちまんばらほんじん

八幡原本陣再現

こゝ八幡原史跡公園は、永禄4年(1561年)の第四次川中島の戦いで、武田信玄の本陣がおかれた場所とされています。信玄は、高坂昌信(春日虎綱)率いる別働隊を、上杉謙信が籠る妻女山に向かわせ、別働隊に背後を突かれて追われてくる上杉軍を挟み撃ちにするため、この八幡原に本陣を敷いて待ち構えていました。後世、啄木鳥戦法と呼ばれるこの作戦は、大河ドラマ「風林火山」の主人公・山本勘助の発案であったとされています。しかし、信玄の動きを見抜いた謙信は、夜陰に紛れていち早く妻女山を下ったため、9月10日朝、信玄の本隊は別働隊の到着を待たずに上杉軍との戦端を開きます。激戦のさなか、謙信が信玄の本陣に攻め込み、信玄に向かって三太刀斬りつけ、信玄は床机にすわったまま軍配でそれを受けたとされる「信玄・謙信一騎討ち」の伝説もこの戦いで生まれました。



風林火山の旗



「風林火山」の旗

ふうりんかざん

武田軍の軍旗であるこの旗は、別名「孫子」の旗ともいわれ、もともと鮮麗な紺色の絹布に金泥で書いたもので、字句は兵法の聖典「孫子」の一節で、武田氏の菩提寺恵林寺の禅僧快川招喜の筆になるものである。

「疾きこと風の如く、徐かなること林の如く、侵掠すること火の如く、動かざること山の如し」

これは合戦にのぞみ、軍隊とはかくあるべきことを教えたもので、孫子の研究者として戦国時代の最高峰といわれた信玄の軍隊運用術でもあった。

武田軍の軍旗としては、このほかに「南無諏方南宮法性上下大明神」の旗があり、「風林火山」の旗と共に武田軍の象徴である。

長野市

安在所



安あん在ざい所しょ

この建物は、明治三十五年五月二十
二日皇太子嘉仁親王殿下よしひと（後の大正天
皇）がこの歴史的景勝地八幡原の史蹟
を御見学の為行啓され（参道右手に石
垣に囲まれた二本の松はその折、殿下
が植えられたもの）、その後も県内外よ
り史蹟見学者が多数訪れ、湯茶接待を
行うための休憩所（二間半四方丸木掘立
板葺）として使用された建物址である。

八幡社社務所





首塚



首くび塚づか

この塚は以前は屍塚かはねづかと呼ばれ、一五六一（永禄四）年九月十日の戦いの後、武田方の海津城主高坂弾正たけのさかだんじょうが激戦場となったこの辺り一帯の戦死者（六千余人）の遺体を敵味方の別なく集め、手厚く葬った塚の一つである。

これを知った上杉謙信は大変感激し、後に塩不足に悩む武田氏に対し、「われ信玄と戦うもそれは弓矢であり、魚塩にあらず」と直ちに塩を送り、この恩に報いたといわれている。このことが乱世に咲いた美学と褒め称えられ、「敵に塩を送る」という言葉が生まれたといわれている。

ここから東南へ約百八十mのところにも同じく大きな首塚がある。昔はこの付近にいくつもの首塚があったが、現存する大きな塚はこの二つだけであり、小さな塚は各所に点在している。

長野市

田中月亀翁父子の歌碑



川中島合戦をしのぶ

田中月亀翁父子の歌碑

田中月亀翁は本名亀太郎、現長野市更北の人で、松代藩主真田幸教に仕え、学問に熱心で、歌道に長じ、その子亀作も亀守と号し、風雅の道で知られていた。

この歌碑は、田中父子の和歌をしるしたもので、表の和歌は、川中島の大激戦の様子をしのび、裏の和歌は、大合戦の終わった後のこ八幡原はちまんばら一帯の情景を歌ったものである。

跡しのぶ 川中島の朝あらし

(表) いぶきのさ霧 おもかげに見ゆ

月廼つきの亀磨かめまろ

月影の入いりにし後も ほととぎす

(裏) ひとこえ残す 小島田の里

月廼つきの亀守かめもり

長野市

川中島大合戦図 1561年(永禄4年)9月10日

KAWANAKAJIMA OLD BATTLEFIELD



武田軍別働隊
1万2千人

8千人

1万3千人

現在地
YOU ARE HERE
八幡神社跡公園
YATTAJIMA HISTORICAL PARK

- 武田軍別働隊**
- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 高坂弾正
Takaba Danpei | 小山田弥三郎
Yamashita Yuzaburo |
| 真田一徳斎
Sanada Ichidekai | 小山田善中
Yamashita Yasunaka |
| 飯富兵部
Ihikuni Heiburo | 菅田下野
Sugata Shimo |
| 相木茂兵衛
Aikimoshigebei | 甘利左衛門
Amari Saemon |
| 馬場氏部
Bama Shibu | 小幡龍張
Obana Ryuzou |

- : 武田軍
- : 武田軍別働隊
- : 上杉軍

武田本陣
TAKEDA HEADQUARTERS

茶臼山
Mt. CHAUSU

1561年8月24日から
布陣せし。8月29日
海津城へ入城

長野市

千曲川
CHIKUMA RIVER

穴山伊豆守
Anayama Izu-no-kami

武田道遠軒
Takeda Shoyoken

山県三郎兵衛
Yamagata Saburobe

柿崎和泉守
Kawasaki Iwano-kami

甘粕近江守
Amakasu Omi-no-kami

宇佐美駿河守
Usami Suruga-no-kami

原隼人
Hara Hayato

小笠原若狭守
Ogikawara Wakasa-no-kami

新発田尾張守
Shibata Owari-no-kami

武田信玄
Takeda Shingen

本庄美作守
Honjo Mitsunaka-no-kami

安田治部少輔
Yasuda Jibusyoyu

山本勘助
Yamamoto Kansuke

武田信繁
Takeda Nobushige

1万3千人

北条丹後守
Kitajo Tango-no-kami

8千人

浅利式部丞
Asari Shikibu-no-jou

諸角豊後守
Morozumi Bungo-no-kami

上杉謙信
Uesugi Kenshin

望月甚八郎
Mochizuki Jinsachiro

長尾遠江守
Nagao Totousu-no-kami

跡部大炊助
Atobe Ohisuke

内藤修理
Naito Shuzi

斉藤下野守
Saito Shimotsuke-no-kami

直江大和守
Naoe Yamoto-no-kami

村上義清
Murakami Yoshikiyo

現在地
YOU ARE HERE



佐久間象山像



川中島の戦い「ゆかりの地

周遊マップ



①【内倉留守の墓】
武田の内倉、武田は武田重信に留守する。内倉留守に任ぜられた重信は、川中島の戦いで戦死し、ここに葬られた。墓は戦後、1981年に建てられた。

②【高山陣跡】
武田の陣跡。武田は武田重信に留守する。高山陣跡は、武田重信が陣取った場所。現在は公園として整備されている。

③【八幡宮跡】
八幡宮跡。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

④【山本助助の墓】
山本助助の墓。山本助助は、武田の戦将。戦死後、ここに葬られた。墓は戦後、1981年に建てられた。

⑤【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑥【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑦【山本助助の墓】
山本助助の墓。山本助助は、武田の戦将。戦死後、ここに葬られた。墓は戦後、1981年に建てられた。

⑧【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑨【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑩【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑪【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑫【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑬【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑭【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑮【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑯【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑰【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。

⑱【新倉橋】
新倉橋。戦前、戦後と異なる。戦前には、戦場跡として整備されている。戦後には、公園として整備されている。